

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 25日

事業所名 アバンツアーレスポーツやまがた

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	・家具をできるだけ置かないようにしたり、荷物を整理整頓したりして、広いスペースを確保している ・利用人数が多いと狭く感じる	・利用者の安全、安心を第一にスペース確保を考え、移転も視野に入れて考えていく。
	2	職員の配置数は適切である	3	4	・基準は十分満たしているが、余裕のある配置していきたい	・不測の事態にも対応できるように、職員を確保していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	7	・玄関が狭い。入り口を広くしたい ・足元が滑りやすい場所がある	・利用者の安全、安心を第一にスペース確保を考え、移転も視野に入れて考えていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	・6か月ごとの業務評価を行い、全職員が参画している	・一人ひとりの業務改善だけでなく、事業所全体での業務改善につなげていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・アンケート結果を職員全体で共有する場を設定している	・アンケート結果をもとに話し合い、改善案をみんなで出し合い、参画意識を高める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2	・実施しているが、職員の認識に差がある	・職員間で情報をしっかり共有する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5	・外部評価の機関はないので、今後の課題と認識している	・本社と連携を取りながら、今後の課題として検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3	・オンライン研修(虐待防止・療育研究)を定期的に行っている ・コロナの影響で、その他の研修会への参加などはできない状態	・外部の研修会だけでなく、他事業所の児発管、スタッフとの連携を深め、事例をもとに研修できる機会を作っていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	・期間に余裕を持って、面談の時間を設定している	・個別支援計画書作成に関わる手順を、職員全体で共有し進めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		・個別支援計画書作成に関わる手順を、職員全体で共有し進めていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3	・サッカー療育のメニューは、いろんな練習を取り入れて工夫している ・職員全員の意見を反映させて立案している	・定期的に活動プログラムの見直しを図る。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	3	・サッカーメニューの工夫	・定期的に活動プログラムの見直しを図る。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	4	・連絡帳などを通じて、保護者、本人のニーズに合う支援を行っている	・利用者のニーズを把握し、個別に対応できる部分は対応していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	・集団活動と個別活動、個に合わせて支援の仕方を職員で共有している	・定期的に活動プログラムの見直しを図る。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	・報告・連絡・相談をしっかり行う	・連絡ミスが無いように、伝達方法を工夫する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	5	・その日に気になったことがあれば職員で共有を図っている	・利用者の成長した点などを語れる時間を作る。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・翌日にはすべて記録が完了している	・個別支援計画書作成に関わる手順を、職員全体で共有し進めていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・ケース会議を定期的開催し、利用者の状態、ニーズを把握して計画案を作成している	・個別支援計画書作成に関わる手順を、職員全体で共有し進めていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	1	・自由遊び(個)、サッカー(集団)		

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	・参加している	・利用者、保護者の気になることは、相談支援員さんに聞きながら安心して利用できるようにしていく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	2	・連絡を取り合いながら、必要に応じて情報交換をして支援している	・連絡ミスが出ないようなシステムを構築していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	・受け入れていない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	4	・相談支援事業所（相談支援員）や保護者からの情報を頂いている。 ・サービス担当者会議の場で情報共有している	・利用者、保護者の気になることは、相談支援員さんに聞きながら安心して利用できるようにしていく。 ・機会があれば積極的に参加し、情報共有に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4	・事業所を移る場合なども情報提供している	・利用者、保護者の気になることは、相談支援員さんに聞きながら安心して利用できるようにしていく。 ・機会があれば積極的に参加し、情報共有に努める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	・研修の機会があれば参加している	・機会があれば積極的に参加する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	7	・コロナの影響でなかなか実施できない	・コロナ終息後、行事等と併せて検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	4	・機会があれば参加している	・機会があれば積極的に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	・送迎時には利用状況を伝えて、保護者の安心感を得られるように努めている	・利用者の変化を伝えあい、情報を共有する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	7	・定期的な面談の場で、保護者の困っていることなどを聞くようにしている	・保護者に適切な助言ができるよう、研修会等に参加しスキルアップを図っていく。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	・契約書、重要事項説明書、上乗負担について説明している	・複数の職員で対応し、丁寧に説明する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2	・保護者からの相談に丁寧に話を聞いて対応している ・必要に応じて相談支援員さんにも情報共有している	・保護者に適切な助言ができるよう、研修会等に参加しスキルアップを図っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7	・コロナの影響で開催できていない	・コロナ終息後、行事等と併せて検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	・最優先事項として対応しています	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	・会報誌は月1回発行している ・コロナの影響で、行事ができなかった	・会報誌の内容を検討し、より保護者に伝わりやすいものを作っていく。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	・原則、事業所外に持ち出さないルールにしている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	・モデリングの提示、文字での伝達など、工夫している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	・コロナの影響でできなかった	・コロナ終息後、行事等と併せて検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	・マニュアルはあるが、コロナへの対応は次々に変化し、対応に追われた	・コロナ対策を保護者にも伝えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	・年2回の訓練実施、事業所の場所などを考慮して行っている	・多くの利用者が参加できるように、実施日、内容を工夫する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・定期的な研修会を実施している	・今後も継続して定期的に行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	3	・個別支援計画に明記するところまで至っていない。保護者への同意を得ながら、組織的に対応できるように改善する。	・個別支援計画に記載し、保護者の理解をしっかりとらうで、身体拘束の際は、複数の職員で判断する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	・対応している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	3	・事例集はあるが、活用する機会が少なかった	・研修会等で事例を挙げて共有していく。